

あおやましんめい  
青山神明遺跡(本発掘調査B)

所在地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内  
(北緯35度15分40秒 東経136度54分53秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川大山川)

調査期間 令和5年5月～令和6年3月

調査面積 6,600㎡

担当者 樋上昇・蔭山誠一・渡邊峻



**調査の経過** 調査は、愛知県建設局河川課による一級河川大山川の中小河川改良事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託を受けて、令和5年5月から令和6年3月に実施した。調査面積は6,600㎡で、豊山町神明公園内の南部を23A区、同公園内の西部を22B区、同公園の西側水田地帯を22C区とする、計3か所に調査区が設定された。

**立地と環境** 遺跡は、西春日井郡豊山町大字青山字神明地内にある遺跡で、小牧台地の南端付近の低位段丘上に立地する。遺跡の南東側には、北東から南西に流れる大山川が存在する。『豊山町史』によれば大字青山には旧字稲荷の畑地内で銅鏡、旧字北畑地内で縄文土器・石器、旧字居屋敷で土器・石器類が確認されている。

**調査の概要** 調査は23A区、23C区、23B区の順で行った。

基本層序は以下の通りである。23A区は、公園の造成の盛土の下にわずかな耕作土があり、その下層に褐灰色の粘土質の基盤層がある。23C区は、表土の耕作土の下層に明黄褐色の粘土質の基盤層がある。23B区は、23A区のように公園造成時の盛土の下に耕作土があり、23C区のような明黄褐色の粘土質の基盤層がある。遺構の覆土は、主に中世までの遺物を含む黒褐色の粘土と近世から近代にかけての遺物を含む褐灰色の粘土を確認した。

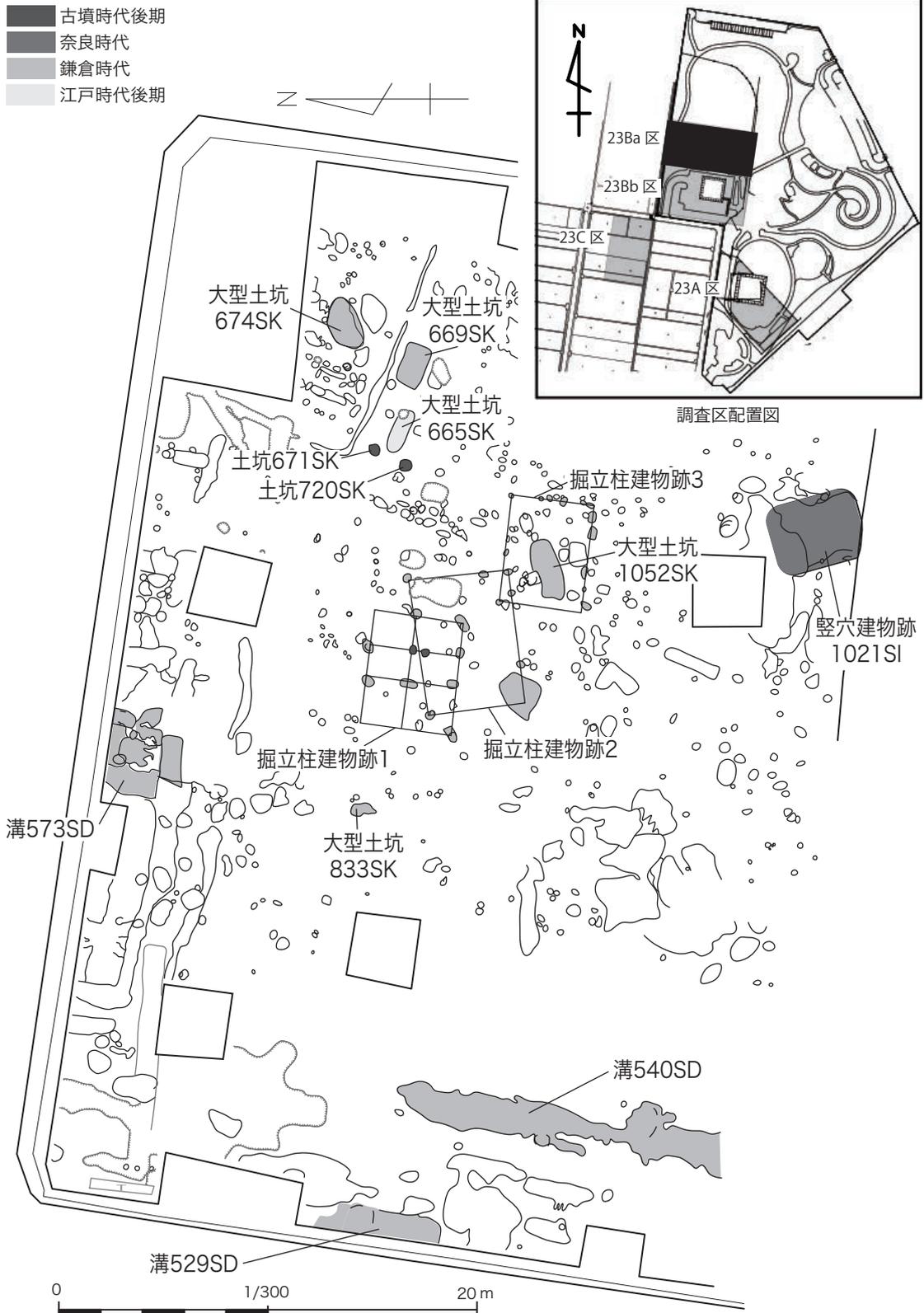
**23A区** 23A区では、中世と江戸時代後期から近代の2時期の遺構や遺物が確認された。調査区の西側で確認された旧河道跡178NRは中世の山茶碗などが出土し、その東岸で大小の土坑が13基検出された。178NRは北東から南西に流れており、大山川の旧河道跡の可能性がある。

**23C区** 23C区では中世の溝が5条、江戸時代後期から近代にかけての溝が13条確認され、それらの間を南北に通る道462SFや池411SXが確認された。遺物は、中世以後の陶磁器片が主体であるが、溝301SDからは弥生土器の高杯が出土した。

**23B区** 23B区では、調査区北側の23Ba区で古墳時代後期の土坑が2基、奈良時代の竪穴建物跡が1棟、鎌倉時代の掘立柱建物跡が3棟、南北に流れる溝が3条、江戸時代後期の土坑1基が確認された。その中で調査区南側にある竪穴建物跡1021SIは奈良時代のもので東西2.8m・南北4.0m、平面形は隅丸長方形で柱穴と周溝が確認された。掘立柱建物跡は調査区中央にあり、掘立柱建物跡1は桁行3間、梁間2間の東西棟の総柱建物で、鎌倉時代のもと考えられる。出土遺物は古墳時代の須恵器の杯身・杯蓋、土師器の甕、古代の灰釉陶器や鎌倉時代の小皿や山茶碗の破片が多数出土した。

**まとめ** 以上により、本遺跡では古墳時代後期から鎌倉時代にかけての集落が営まれ、中世から近代には遺跡の南東側を流れる旧河道跡の周辺に集落が展開していたものと考えられる。

(渡邊峻)



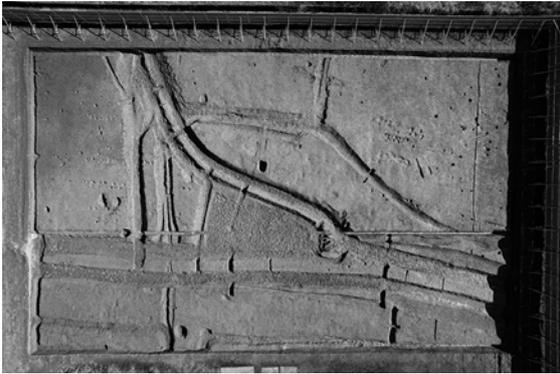
23Ba区 主要遺構全体図 (S=1/300)



遺跡全景(南西から)



23A区全景(西上から)



23C区全景(西上から)



23Ba区全景(北上から)



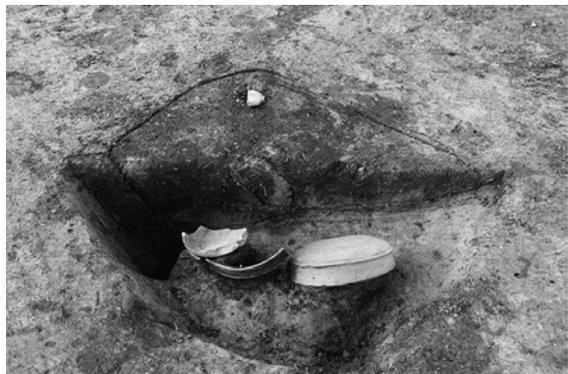
23Ab区旧河道跡178NR遺物出土状況(東から)



23Ca区溝301SD遺物出土状況(北から)



23Ba区竪穴建物跡1021SI(北から)



23Ba区土坑671SK遺物出土状況(東から)